

	牧師 山本 護	司式 露木淳司	奏楽 山本 恵美
前 奏	黙想		讃美歌 267 神はわがやぐら(ルター作)
讃美歌	55 今日ひかりを		聖餐式
祈 禱			讃美歌 205 わが主よ、今ここにて
信仰告白	使徒信条 566		献 金
聖 書	レビ記 19:18 ローマの信徒への手紙 15:7		讃 詠 547 いまささぐるそなえものを 黙 禱
讃美歌	354 かいぬしわが主よ		主の祈り 564
説 教	『自己愛、隣人愛、神への愛』		頌 栄 544 あまつみたみも
祈 禱			祝 禱 後 奏

「たとえ明日、この世界が滅びるとしても、今日私は林檎の木を植える」。出典は定かではないが、宗教改革者 M.ルター(1483~1546)の言葉として広く知られている。これほどに知られたルターの言葉の何が、人々の心を打つのだろうか。調べてみるとこの金言は、1930年代の末頃ナチズムに対する教会闘争の中で人々の口へのぼり始めたようだ。悪魔的な偶像に引っ張られていたドイツにあって、短い金言がキリスト者を命懸けの抵抗へと押し出した。そのことを思うと、いっそう胸に染みる。

「自分を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である(レビ 19:18)」。神の前で、素朴に隣人を愛する。ルターの注解によれば、命じられているのは「隣人愛」のみで「自己愛」は悪だと言う。「隣人を愛する時にこそあなたは自己愛の悪から解放される」のだと。あなたは愛されているよ、とか、あなたは大事だよ、とか、優しく自己肯定を促す現代のムードからすると、相当きつい。ただ厳密に見れば、ルターが言う自己愛は利己心とほとんど同義で、そのような自己愛は、隣人愛と神への愛で克服されるべきものとされる。民衆のコンプレックスにつけ込んで利己心を煽り立てたナチズム。それと闘うドイツの冷静なキリスト者は、隣人愛と神への愛を支えとして、林檎の木を植え続けた。

「だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい(マタイ 15:7)」。キリストは私たちを受け入れて下さった。だから私たちは、お互いを受け入れうる。私たちはキリストに愛されている。ゆえに隣人と神を愛しうる。まず先にキリストが愛してくれている。隣人愛は実際に判るにしても、神への愛はどう見極められるのか。イエスは言った。「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者にしたのは、わたしにしてくれたことなのである(マタイ 25:40)」。つまり隣人愛と神への愛は、分かちがたく結びついている。

M.ルターがいくら偉くても、「自己愛は悪、隣人愛は善」としつこく言われるとその正義ぶりが鼻につく。ルター派教会の牧師 D.ボンヘッファー(1906~45)は、ナチスに処刑される獄中でこう書いている。「過度の愛他主義は抑圧的だし、要求がましい。“エゴイズム”の方がずっと非利己的なことだであるのだ」。そうだ、現実をよく見よう。信仰熱心なあまりに陥りやすい「人間の義」を警戒したい。

問題は、自己愛ではなく利己心だ。利己心は無自覚で、心の空虚を埋め合わせしようとするが、結局は虚しいまま。「神に愛されている」自己愛は自らを肯定し、同時に隣人をも肯定する。自分を愛しうる者は隣人を愛しうる。「自分を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である(レビ 19:18)」。君たちは、神に愛されている自分を愛しているのだから、隣人をも愛せるはず」というニュアンス。私は、キリストの命に代えてまで愛されている私、なのだから。自己愛と神への愛も、分かちがたい。

ここでようやく、イエスの言葉の前に立つ。「しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい(マタイ 5:44)」。隣人愛は敵にまで届き、私たちは祈る。夢物語ではない。なぜなら私たちの愛の出处は、御自分の命に代えて私たちを救って下さった方から来ているのだから。

自己愛はナルシズムではない 私に注がれ 私に働くキリストの愛 キリストの愛は隣人に注がれ 癩に障るが迫害する者にも注がれている 実際どこまで赦せるものか ああ愛のなんという諧調か

11/6 は役員会、トチャムの練習あり。11/5(土)10:30~礼拝堂で山梨ダルクの石森さんと理砂さんの結婚式。11/3(水)1:00~3:00 教会カフェ。牧師の動き:11/3,YMCA で聖書の話、午後は刑務所で教誨。

八ヶ岳教会、礼拝堂と集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。